

立毛間播種により東北地方でもソバとナタネの二毛作ができる

研究のねらい

ナタネの栽培期間は東北地方では約10ヵ月間と長く、栽培期間の短いソバとの組合せでも通常の二毛作はできない。そこで、大豆・麦用の立毛間播種作業機を、ナタネとソバの播種ができるように改造して、ソバーナタネの二毛作を可能にし、効率の良いナタネの輪作体系を構築する。

成果の内容

- ①大豆・麦立毛間播種機に、種子繰り出しロールのセル容積の縮小、分草桿の追加・延長、という簡単な改造を行うことにより(図1)、栽培中のソバ畝間へのナタネ播種(立毛間播種)が可能になる。
- ②ナタネ収穫後には、ソバ播種に使用できる(図2、整地・不耕起どちらも可能)。
- ③寒冷地においても作期競合を回避して、ソバーナタネ二毛作が可能となる(図2)。ただし、ナタネの連作障害を起こさないように3年5作程度までに留める。
- ④ソバ収穫時に、コンバインがソバの条間のナタネを踏圧すると、生育が抑制されるので、コンバインのクローラに合わせた栽植様式として、できるだけナタネを踏圧しないようにする。



図1 ソバ・ナタネ用に改造した立毛間播種機

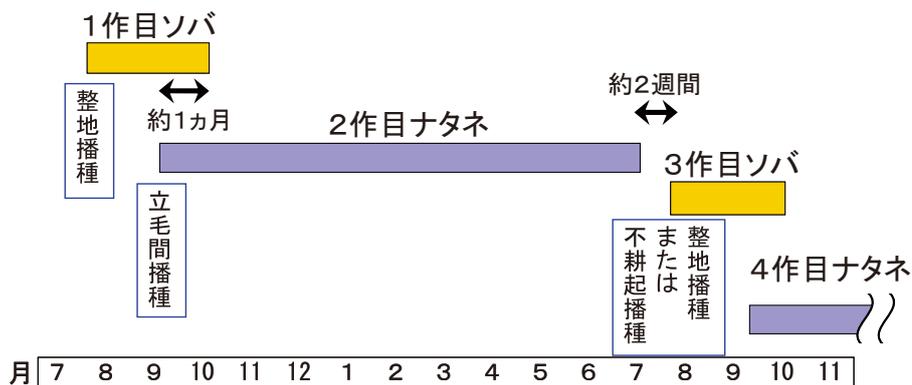


図2 ソバ・ナタネ二毛作の播種作業体系(盛岡市の場合)

成果の利活用

- ①立毛間播種機は、(株)ササキコーポレーションより販売されている。ナタネ・ソバ用への改造は簡易であり、ユーザが実施可能。車輪用分草桿は乗用管理機のオプションとして購入できる。

